

# 『こどものケガと事故』

こどものけがや事故は、軽症なものから命にかかわるものまで様々です。これらのけがや事故は、お子様の発達と密接に関係しています。お子様の月齢や年齢により起こりやすいけがや事故を理解して、未然に防いであげることが重要です。

## ◆ 生後5か月まで

1日の半分を寝て過ごし、首のすわり、寝返りができないこの時期は、やわらかい布団、まくら、マットレスはやめましょう。3ヶ月ごろから首がすわり、寝返り、手足のばたばたなどができるようになりますので、ソファやベッドからの転落に注意が必要です。寝返り、ずりばいを睡眠中もするようになり、ひもや衣類が首に巻きつかないようにすることが大事です。こどもは目の前にあるものに対して興味を持ち、触って、舐めて、口の中に入れてようとします。生後5ヶ月ごろから物をつかむができ、口に入れて窒息する恐れがあります。代表的なものはピーナッツなどの豆類です。詰まりやすい形で、気管に引っ掛かって水分を吸収し、膨らんで取り出しにくくなります。このようなものが周囲にないか注意してください。

## ◆ 6か月から1歳まで

はいはい、つかまり立ち、ひとり歩きのこの時期は、行動範囲が広がって好奇心も旺盛で、転倒、転落、やけど、誤飲など様々な事故が起きやすくなります。この時期は発達が著しく昨日できなかったことが今日できるようになります。戸棚や引き出しに指や手をはさんだり、台所の調理器具などで喉を突いてしまう危険があります。やけどの原因はテーブルクロスを引っ張り、頭から味噌汁や飲み物をかぶったり、カップラーメンなど熱い食べ物に触れたり、熱い鍋やアイロンに触ったりします。調理器具や暖房器具は、子供が届かないところに置きましょう。浴槽、風呂場は事故が多く、命にかかわる重症なものが起こりやすい場所です。浴槽の残湯は溺れる要因になるため抜いておきましょう。また、お湯の温度は入浴前に確認する必要があります。(次ページに続く)



高木 健 (たかぎ けん) 先生  
日本小児科学会専門医

2015年8月から日本クラブ診療所勤務。幼少期と医師になってから通算12年の在米経験がある。11歳と7歳の息子をもつ。

	新生児	6か月	1歳	2歳	3歳	
発達の様子	寝返り	ひとり座り	ハイハイ	つかまり立ち	ひとり歩き	階段昇降
誤飲 窒息	枕・やわらかい布団	たばこ・栗・コイン・ボタン・電池など	ひも・よだれかけ・ビニール袋	洗剤・化粧品などを開けて飲む	ピーナッツ・豆類	
やけど	湯たんぼ・あんか 風呂・シャワーの湯	食事中に湯のみなどを倒す	ポット・炊飯器の蒸気に触れる	ライター 花火	カップめん	
溺 水			ストーブ・アイロンに触る		海や川やプールでおぼれる ビニールプール	
転 落	親がうっかり落とす	ベッド 自転車	浴槽・洗濯機へ転落しておぼれる	階段 ベビーカー いす	ブランコやすべり台 窓やベランダ	
打撲や切り傷		角のあるおもちゃ	扇風機の羽にさわる	ドアにはさまる		
その他	自動車内放置による熱中症・交通事故		転んでテーブルの角などにぶつかる		歯ブラシを口に入れたまま転倒する	

新潟市「子どもの発達と起こりやすい事故の例」より

## ◆ 1歳から3歳

ひとり歩き（自由に動き回る）、階段の上り下り、その場でジャンプなど行動がさらに活発になり、室内の事故と外出時の事故が増える時期です。

ベビーベッドを登って転落、窓など高いところに登って転落など様々です。公園などでは、ブランコ、すべり台からの転落がよくみられます。この時期には、遊びに夢中になりボールなどを追いかけて車道に飛び出し事故に巻き込まれることがあります。遊びからビー玉や豆などを鼻や耳などに入れてしまい取れなくなってしまうこともあります。ビニール袋をかぶったり、ひもで遊んで窒息なども注意が必要です。冷蔵庫や洗濯機などに入らないようにすることも大事です。

## ◆ 3歳から5歳

走ったり登ったり、さらに動きが激しくなりますが、まだ周囲の状況に対する判断ができません。親の見えないところで遊ぶ機会も増え、室内・屋外での事故が多くなり骨折など大きな事故も起きやすい時期です。

ベランダの柵を登ったり、高いところからの転落、食事の際に熱い物をこぼすことやマツチ遊びでのやけどなどに注意です。自転車などに乗る際にはヘルメット、目立つ格好(反射板)などが必要です。交通事故も多発するため交通ルールを説明することが大事です。この時期は親が1人で監督するのは困難であり周囲の方々の協力が必要になります。

## ◆ けがや事故が起きたとき

頭部外傷、誤飲・誤嚥、やけどの対応を解説します。

## ● 頭をぶつけたとき

小児の頭の解剖学的特長から軽微な衝撃でも重篤な状態になることもあれば、逆に衝撃の程度が強くても傷害の程度が軽くすんだりします。対処の仕方は状況によって異なりますので、参考にしてみてください。

① **すぐ泣いたか**：すぐ泣いた場合は意識障害はありません。嘔吐、けいれんなどがなければ経過を見ます。しかし、泣かずに意識障害がある場合は救急車を呼び、病院で受診してください。救急車が来るまでは呼吸状態を見て頭部を動かさず安静にして待ち、いびきや下あごを引くような呼吸になったら下あごを前方に押し上げ舌根が落ち込まないようにすることが重要です。意識が戻っても必ず病院で受診してください。

② **外傷の有無**：出血があれば清潔なタオルで止血するまで圧迫します。圧迫しても止血しない場合は病院へ。たんこぶがある場合は冷たいタオルで冷やします。

③ **嘔吐した場合**：1、2回の嘔吐だけで意識障害やけいれんがなければ心配ありませんが、嘔吐後も気分の回復がなければ病院で受診してください。意識障害があり嘔吐する場合は吐物を誤嚥する危険がありますので必ず横向きにして吐物を口腔外へ導き出してください。 ↗

④ **鼻や耳から液体が出ている**：直ちに病院へ。

⑤ **呼吸していない**：救急車を呼び、心肺蘇生を開始する。

⑥ **受傷後いつまで心配すべきか**：受傷直後は意識もあって元気でも、数時間後に意識障害が出るケースや、受傷してから数時間後、数日後、数カ月後に症状が出ることもありますので、受傷後ののぐらい時間がたてば安心できるという期間は決められません。念のため受傷してから72時間は注意してください。その後は多少安心してよいと考えられます。

## ● 誤飲・誤嚥（ごえん）

誤飲はどの年齢においても見られる事故です。直ちに病院で受診が必要なのは、ボタン型電池の誤飲・誤嚥です。粘膜に付着して穴を開けてしまうため、早急に取り出す必要があります。また、誤飲・誤嚥した恐れがあり、病院で受診する際は、飲み込んだものと同じものを持参してください。レントゲンを撮るときに使用します。

## ● やけど

やけどをした場合は直ちに流水で20分ほど冷やしてください。衣類などは慌てて脱がさずに、皮膚に付着していないか確認してから、ゆっくり脱がせてください。衣類が皮膚に付着している場合は、衣類の上から流水で冷やしてください。病院受診の目安は、水泡の出現、皮膚が白色化または焦げた場合、深い、広い場合(受傷した人の手の平より広い)、5歳未満の場合、などです。

## ◆ まとめ

こどもの成長は親にとって何より見ていて楽しいものです。その成長と発達を温かく見守り、けがや事故を未然に防いであげることを心がけましょう。

(おわり)

## ◆◇ 小林 剛 先生 が 着任しました ◇◇

東京慈恵会医科大学の消化器・肝臓内科より赴任して参りました小林剛と申します。これまで主に、胃潰瘍や炎症性腸疾患などの消化器疾患、およびウイルス性肝炎や胆石、膵炎などの肝・胆・膵疾患の診療に従事してきました。

特に早期胃癌や大腸ポリープといった消化管疾患の内視鏡診断・治療を専門に行って参りました。

日本クラブ診療所ではこれまでの経験を踏まえ、内科全般の診療を幅広く行っていきたいと思います。微力ではございますが、患者様の健康維持・管理にお役に立てるよう一杯努めて参りますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

## 小林先生の「内視鏡検査」の曜日と時間

月曜日(11:00~13:00)

水曜日(10:30~13:00)

どうぞお気軽にお問合せください

